

# 聴覚障害者福祉 の現状と課題

社会福祉士 精神保健福祉士  
高山亨太

# 聴覚・言語障害者の人数

## ○障害の程度別にみた聴覚・言語障害者

※障害者手帳の等級別(単位:千人)

総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明
350	16	83	72	66	1	92	21

## ○年齢別にみた分布

18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～79歳	不祥
2	15	11	24	31	40	38	174	14

## ○障害の発生時の年齢階級別年齢

0～3歳	4～12歳	13～17歳	18～39歳	40～64歳	65歳以上	不祥
53	27	4	36	79	56	94

# 聴覚障害者の場合

- ・ 言語獲得前の失聴者
- ・ 言語獲得後の失聴者
- ・ 老人性難聴者
- ・ 重複障害者

# 聴覚障害者福祉の現状

- 聴覚障害者の支援が認識されるようになり（高山ら 2009）、聴覚障害者福祉の担い手や施設は増えつつある（高山 2007）。
- 聴覚障害学生的高等教育機関への進学が増え（独立行政法人日本学生支援機構 2011）、社会福祉を学ぶ学生への支援、特に現場実習での対応が課題となっている（赤畑・高山 2005）。
- 社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュ

# 社会福祉とソーシャルワーク

- 社会福祉 (*Social welfare*)
  - 社会福祉制度や所得保障制度の総称
- ソーシャルワーク (*Social work*)
  - カウンセリングなどを含む専門的援助技術の総称

# 聴覚障害者に対応ができる専門職の養成

- 社会福祉士
- 精神保健福祉士
- 臨床心理士
- 介護福祉士
- ホームヘルパー
- ケアマネージャー

# 現状として

- ろう者や難聴者、また手話について正しい理解が可能なソーシャルワーカーや心理士は少ない
- 手話通訳者自身がケースワーク的支援を担らざるべきを得ない状況が起こることもある

# 聴覚障害者を取り巻く環境の変化

- ろう教育とインテグレーション
- 高等教育への進学
- 障害者自立支援法
- 障害当事者の専門家
- 大震災



# 社会福祉の区分

- 生活保護・貧困
- 老人福祉
- 身体障害者福祉
- 精神障害者福祉
- 児童福祉
- 母子寡婦福祉

- 旧法で、聴覚障害者を対象にした社会福祉施設として法的に位置づけられているのは
  - 聴覚言語障害者更生施設
  - 聴覚障害者情報提供施設
  - ろうあ児施設
  - 難聴幼児通園施設

# 聴覚障害者福祉施設

- たましるの郷（入所・通所・東京都）
- なかまの里（入所・大阪府）
- わかふじ寮・第2わかふじ寮（入所・北海道）
- わかふじワークセンター（通所・北海道）
- いこいの村・栗の木寮（入所・京都府）
- 光が丘ワークセンター（入所・福井県）
- ふれあいの里・どんぐり（入所・埼玉県）

聴覚障害があるがゆえに社会の無理解やさまざまな差別にさらされてきた方が大勢います。この方たちが高齢期を迎えたときに、手話等によるコミュニケーションが保障された環境の中で安心して暮らせるようにするための施設が必要です。高齢聴覚障害者のための養護老人ホームや特別養護老人ホームは全国に9ヶ所あります。お気軽にお問い合わせください。



聴覚障害者  
養護老人ホーム  
**やすらぎ荘**  
定員 50名 入所 50名

北海道 上川郡 新得町



特別養護  
老人ホーム  
**あすらや荘**  
定員 120名 入所 104名  
短期入所 16名

広島県 呉市



特別養護  
老人ホーム  
**淡路ふくろうの郷**  
定員 70名 入所 60名  
短期入所 10名

兵庫県 洲本市



特別養護  
老人ホーム  
**新得やすらぎ荘**  
定員 60名 入所 50名  
短期入所 10名

北海道 上川郡 新得町



聴覚障害者  
養護老人ホーム  
**あすらや荘**  
定員 50名 入所 50名

広島県 呉市



特別養護  
老人ホーム  
**ななふく苑**  
定員 73名 入所 68名  
短期入所 5名

埼玉県 入間郡 毛呂山町



聴覚障害者  
養護老人ホーム  
**田尻苑**  
定員 50名 入所 50名

福岡県 福岡市



特別養護  
老人ホーム  
**あすくの里**  
定員 100名 入所 80名  
短期入所 20名

大阪府 羽曳野市



特別養護  
老人ホーム  
**いこいの村・梅の木寮**  
定員 105名 入所 90名  
短期入所 15名

京都府 綾部市

# ろうあ相談員

- 法的にろうあ相談員という定義は存在しない
- ろうあ連盟や地域独自で設置している場合がほとんど
- どちらかというとピアカウンセリング的である
- ボランティアか非常勤が多い

# 成年後見制度

- 聴覚障害者のための成年後見制度の活用が課題となっている
- 聴覚障害者に対応が可能な成年後見人の養成と確保

# 専門職に求められる知識と技術

1. 聴覚障害の理解
2. 視覚の理解
3. 言語とコミュニケーションの違いの理解
4. ニーズの理解
5. 手話通訳・文字通訳の理解と連携
6. 聴覚障害者の歴史と生活の理解
7. 聴覚障害者に関する統計的・文献的理解
8. ソーシャルワークの価値観の理解（倫理綱領）
9. ソーシャルワーク理論・技術
10. 発達心理・精神医学
11. 聴覚障害者に関する法律制度の理解
12. 地域のデフコミュニティについての把握
13. 他専門職・他機関連携
14. 当事者性の理解

# 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

- 聴覚障害者支援に関わる社会福祉士や精神保健福祉士を正会員とする専門職能団体
- 2006年7月に設立
- 資格を有していなくても興味のある方や学生は準会員として加入できる
- 研究大会と研修会を開催している



# ロールモデルやリーダーとの出会い

- Cool Head, Warm Heart (冷静な頭脳と暖かい心)
- Passion (情熱)
- Vision (見通し)
- Literacy (基礎的読み書き)
- Language (言語)
- Network (ネットワーク)
- Education (教育)